

復興への力：能登半島地震・ 奥能登豪雨を超えて

“Resilience in Recovery”
Beyond 2024 Noto Peninsula Earthquake and
Noto rain disaster

中納治久
Haruhisa NAKANO



(なかの・はるひさ)
ICDフェロー
昭和医科大学歯学部
歯科矯正学講座

私は、石川県輪島市町野町にある中納酒造株式会社
の長男として生まれました。中納酒造（図1）は、
1849年（嘉永2年）に創業し、能登杜氏の伝統を受け
継いできた蔵元です。本来であれば家業を継ぐべき立
場でしたが、父の「好きなことをやりなさい」という
方針のもと、私は子どもの頃からの夢であった矯正歯
科医の道を選び、母が社長として切り盛りしておりま
した。

しかし、2024年1月1日、石川県能登地方を中心に
発生したマグニチュード7.6の大地震により、地域は
甚大な被害を受けました。令和6年能登半島地震とし
て知られるこの地震は、私の実家がある地域にも大き
な被害をもたらし、多くの住宅が倒壊・半壊し、土蔵
や古民家などの伝統的建造物も甚大な損壊を受けまし
た。特にインフラへの影響は深刻で、道路は寸断され
孤立状態が続きました。母と連絡がついたのは、1月
2日の夕方でした。公民館に設置された唯一の有線電
話から、母が「私は生きている。元気。心配するな。
こっちに来るな。」と短く話してくれました。私が実
家に戻ることができたのは、それから2か月後の2月
27日でした。帰省して母の顔を見たとき、緊張の糸が
切れ、思わず涙があふれました。そして、実家の現状
を目の当たりにし、自分たちが被災したという現実を
改めて実感しました。建物はかろうじて建っていまし
ましたが、壁にはひびが入り、床は大きく傾斜し、とても
住めるような状態ではありません。中納酒造の酒蔵や
土蔵も、9棟のうち7棟が半壊以上の被害を受け、
実家とともに公費解体の対象となり、江戸時代から
続いた家業もいよいよ終焉かと思われる状況でした



図1 2017年当時の中納酒造



図2 酒蔵



図3 土蔵

(図2, 3)。さらに、2024年9月には奥能登豪雨が発生し、地震からの復旧途上にあった町野町では、土砂災害や河川の氾濫が相次ぎ、見るも無惨な状態となっていました。

そのような中で、私は改めて母の強さを実感しました。度重なる困難に見舞われながらも、何としても奥能登を復興させたいという強い意志が母から感じられました。母は東京出身でしたが、20年前に父が亡くなって以降、何度「東京に来てほしい」と伝えても、毎回断られてきました。今回も同様に、取材を受けたNHKスペシャルの中で、母が「私はここに残りたい」と語っている姿を見て、その意志の強さを改めて感じました。

そうした中、母と今後のことを話し合っていた折に、思いがけず“ホワイトナイト”とも言える人物が現れました。それは、私が勤務している昭和医科大学歯科病院の元同僚とその友人でした。不思議なご縁で、その同僚達は日本酒が大好きであり、「中納酒造を復活させたい」「自分たちの手で酒造りをしたい」「酒蔵の再建を能登復興の一助としたい」と、熱い想いを語ってくれました。後日、母と面談した際にもその熱意が伝わり、第三者による事業継承という形で、再出発することが決まりました。

しかし、その矢先の2025年1月20日、誰よりも元気だった母が急逝いたしました。母が一人で耐えていたことを思うと、今も悔しさと責任の念で胸が締めつけられます。この1年間は、能登半島地震、奥能登豪雨、そして母の死と、耐え難い出来事が次々に起こり、「もう勘弁して!」と落ち込みましたが、家族や

職場の同僚の支えにより、なんとか前を向いて立ち続けることができました。そんな中で、母の口癖だった「何とかなるさ!」という言葉が、私の背中を押してくれました。落ち込んでいても母は喜ばない、本当の正解は誰にもわからない、だからこそ、何もしないより行動しようと思いました。

そこで、母と共に決めた第三者への事業継承を実現する為には、公費解体を進める必要がありました。そのためには会社の代表者を定める必要があり、昭和医科大学法人に「中納酒造株式会社 代表役員 変更許可のお願い」を申請いたしました。必要な手続きを進めるために、一時的に第10代目の代表取締役社長に就任することをご許可いただき、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

現在は、新生・中納酒造へ円滑に事業継承が進むよう、休暇を活用しながら、国税・酒造組合・県庁などへの各種手続きに奔走しています。まったくの専門外で知らないことばかりに直面し、世の中には自分の知らないことが本当に多いと落胆することもあります。それでも自分に出来ることに全力で取り組み、いわば“二刀流”の覚悟で日々努めております。人件費や資材の高騰、酒米の確保など、課題は山積しておりますが、「何もしないよりは良い」と考え、私自身も中納酒造の再出発を全力で応援してまいります。

「何とかなるさ!」—母の想いを胸に、中納酒造の新たな旅立ちが能登復興の一助となるよう、微力ながら努力を続けてまいります。たとえ無駄に思えることがあっても、困難を乗り越える経験は、きっと本業である歯科医療にも活かされると信じております。